第 52 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	奥田ゼミ	チーム名	奥田ゼミ
タイトル	分業の成り立ちと発展		
テーマ群	f 群(歴史と思想)		
メンバー	圓尾篤司		
研究計画内容	【研究背景】 　世の中の産業は分業によって営まれているため、分業の成り立ちから発展までを調べれば、正しく経済を見ることができると考えたため。また、分業と一口に言っても、例えばパン工場で小麦をこねる人や出来上がった製品を紙に包むなどといった様々な役割について着目してみると、これは分業ではなく作業の分割ではないかという疑問が出てくる。正しい意味での分業とはどの様なものなのかについて理解したいと考えている。 【研究内容】 　下記の文献を基に、それぞれ比較しながらアダム・スミスの分業論について分析する。例えば、なぜアダム・スミスの『国富論』は分業から始まるのか。歴史に名を残した経済学者は分業をどの程度重視していたのかについて調べる。 　また、研究背景の項に記載した通り、分業の意味が単なる作業分割と混同しているのではないかという点についても着目していく。 【期待される効果】 　分業の正しい意味を理解することで、経済活動の仕組みを深く理解できると考えている。具体的に言うと、工場で様々な作業を各々が担当することも分業と言って差し支え無いが、地位や権力などによる縦の構造にも分業を確かに確認できると考えている。特に後者の場合、どこの地位の人間が経済にどれだけの影響を与えるのか、あるいは必要の無い役割なのではないかということが、研究を通じて理解できると期待している。 【参考文献】 『法学講義』　アダム・スミス著　水田洋訳　岩波文庫 『法学講義　1762～1763』　アダム・スミス著　水田洋・篠原久・只腰親和・前田俊文訳　名古屋大学出版会 『国富論Ⅰ』　アダム・スミス著　大河内一男訳　中央公論新社(中公文庫)		